

実質化された人・農地プラン（令和5年度見直し）

市町村名	対象地区名／地域名	当初作成年月	直近の更新年月日
青森市	浪岡 (浪岡・五本松・王余魚沢)	平成25年1月	令和6年3月27日

1. 対象地区の現状

認定農業者により、水稻、野菜、果樹などが栽培されており、認定農業者を中心に農用地の利用が図られているが、農業者の高齢化及び若い世代の農業者の不足により、後継者未定の農業者の耕作面積が多くなっている。水田については概ね基盤整備されているが、一部で基盤整備されていない水田があるほか、農道の幅が狭く大型機械の通行ができない箇所がみられる。また、高齢化や後継者不足により、リングの放任園が増加し、アメリカシロヒトリ等の病害虫の発生増加もみられる。

① 地域内の耕地面積	476.5 ha
② アンケート調査等に回答した地域内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	241.0 ha
③ 地域内における50歳以上の農業者の耕作面積の合計	159.7 ha
1) うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	104.6 ha
2) うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	3.1 ha
④ 地域内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	72.7 ha

2. 対象地区の課題

課 題	概 要
① 農地の集約化に関する課題	今後の中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積よりも50歳以上で後継者未定の農業者の耕作面積の方が多く、若い世代の新たな農地の受け手の確保が必要である。
② 農道整備に関する課題	農道が狭く大型の機械を入れずらいため、農道整備の実施に向けた取組が必要である。
③ 放任園に関する課題	放任園の増加に伴い、病害虫が多発しているため、放任園への薬散等の対策が必要である。

3. 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

当該地域の農地利用は、本プランに中心経営体として位置づけられた経営体が担い、認定農業者や認定新規就農者の受入を促進することにより対応していくほか、関係機関と連携のうえ農道整備の実施を検討し、農地利用を促進しながら放任園の解消を図っていく。

4. 今後の地域農業のあり方（3の方針を実現するために必要な取組に関する方針）

今後は生産性を高めるため継続的な機械導入に取組むとともに、関係機関と連携しながら農道の整備を行うこととする。水稻については面積、規模に応じた農業機械の導入を促進し、りんごについては防除用機械等の導入による品質の平準化と省力化を図ることにより良質な生産に努めるとともに、地域の放任園における病害虫についても防除を図る。また、複合経営の取組みや、2次産業・3次産業との連携を図りながら、新規就農者の受入を行い、若い世代の担い手の確保を進めていく。

5. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○経営体数	32 経営体
法人	2 経営体
個人	30 経営体
集落営農（任意組織）	0 組織